



## プロフィール



### かまくらシンフォニエッタ

1997年2月、鎌倉市とその近郊在住の有志により「平日に活動する室内管弦楽団」として発足。以来20年、定期演奏会をはじめ依頼演奏会、福祉施設への訪問コンサートなど地域に根を下ろした演奏活動を行っています。団員は現在約30名、良い指揮者にも恵まれ年々お客様も増え、張り切って練習に励んでいます。



### 阿部真也・・指揮者

幼少よりピアノを、13歳よりヴァイオリンを始める。札幌インターナショナルスクールを経て、17歳で渡米し、サンフランシスコ音楽院ヴァイオリン、ヴィオラ科修了。2005年より拠点をドレスデンに移しオーケストラ奏者・指揮者として研鑽を積み、現在に至る。

2006年コルドバ国際指揮者コンクール入賞。2007年よりエドワードサイド音楽院ベツレヘム校ヴァイオリン、ヴィオラ、室内楽科教授に就任。現在は同音楽院客員教授、客演指揮者として籍を置いている。

「コバケンとその仲間たちプレミアムオーケストラ」首席奏者など、国内外で客演首席奏者、指揮者を務める他、東京を中心に2007年より「阿部真也と仲間達室内楽シリーズ」を主宰するなど世界中を飛び回る多忙な演奏活動を行っている。

### 本日の出演者

室内管弦楽団

かまくら **シンフォニエッタ**



Violin	市瀬雅子	小原治子	関 美和子
	高橋けい子	田仲暁子	戸津隆子
	豊田爽子	中村順子	畠中正志
	松野美智子	松村紀子	丸山寿一
Viola	小原克馬	加藤敬子	北 直子
	高久邦子	三門サカエ	水上 清
Cello	射場寛子	尾崎 彩	中井まゆみ
	中井良樹	堀口省平	松野義明
Bass	建部欣司	松永弘城	
Flute	森口尚美	鷺尾 登	
Oboe	小林晃子	小林隆志	
Clarinet	新居淑子	池上美香	
Fagott	松木祐子	松木葉子	
Horn	秋元 健	小川 恵	
Trumpet	大石源太	高橋勇太郎	
Harp	小野田清香		
Percuss.	古川翔也	宮部裕美	八島 優
代表		梅沢定彦	
コンサートミストレス		関 美和子	
練習指導		谷口賢記	

### 次回の演奏会は

#### 第19回定期演奏会

日時：2019年5月26日（日）

会場：鎌倉芸術館小ホール

曲目：モーツァルト・交響曲第40番ほか

かまくら  
**シンフォニエッタ**  
*Kamakura Sinfonietta*

秋の  
**アフタヌーン  
コンサート**

2018年9月29日(土)

鎌倉生涯学習センターホール

後援：鎌倉市・鎌倉合奏連盟

## プログラム 曲目解説

### モーツァルト

## 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」 序曲

正式なタイトルはCosì fan tutte, ossia La scuola degli amanti  
(女はみなこうしたもの、または恋人たちの学校)

この曲は1790年皇帝ヨーゼフ2世の依頼を受け作曲されたオペラブッフア（喜劇）で、序曲とは劇が始まる前に演奏される最初の曲です。ただの景気づけの音楽ではなく、その中には劇の内容が散りばめられ、「女はみな、こうしたもの」と歌う時のメロディが何度か出てきてワクワクさせてくれるのです。

劇の内容は、姉妹の恋人である二人の男が入れ替わり、それぞれの相手の貞節を試すなどという不道德極まりないお話。その為に19世紀にはほとんど上演されなかったそうです。しかし、さすがモーツァルト！このお話にこんな美しい旋律を付けるなんて。

機会がありましたら、オペラの方もご覧になってはいかがでしょうか。

### ヴォーン・ウィリアムズ

## グリーンスリーブスによる

## 幻想曲

16世紀ころからイングランドで歌われたイギリスの民謡に基づいてヴォーン・ウィリアムズによって1934年に管弦楽曲として作曲されました。

この民謡は、自分の元を去っていった恋人への未練を歌った曲で、“グリーンスリーブス”（緑の袖）とはその恋人の女性が身に着けていた衣服を指し、その恋人そのものの象徴であると言われています。

同時期にシェイクスピアが活躍しており、『ウィンザーの陽気な女房たち』の中にも‘Greensleeves’という言葉が登場するほどこの民謡が流行していたと考えられます。恋人に対する切ない思いを歌ったこのメロディーは、20世紀の作曲家によってアレンジされ、世界中に知られるようになりました。

曲の冒頭は悲しげなフルートの音色に始まり、それにハーブが優しく彩りを加え、素朴かつ哀愁を帯びた旋律を弦楽器が美しく奏でます。この美しさは日本人の心にも響き、岩谷時子氏、門馬直衛氏、三木おさむ氏らによって日本語の歌詞にも訳されています。

### ドビュッシー

## 小組曲

元々は、若き日のドビュッシーの初期のピアノ連弾の作品です。初演後、ドビュッシーの友人アンリ・ビュッセルにより、作曲者自身の監修のもと管弦楽曲に編曲され、それから広く知られるようになりました。

それぞれ3分ほどの4つの曲が組曲になっています。1、2曲は、ドビュッシーが敬愛していたフランスを代表する詩人の一人、ヴェルレーヌの詩集から取られたものといわれています。

1、小舟にて

小舟に寄ってくる河畔のさざ波を思わせるようなハーブの分散和音に乗って、フルートが舟歌風の主題を演奏し、木管楽器間でこれを繋げた後に、弦楽器が割合低い音で別の旋律を弾きます。

2、行列

子供達が飛び跳ねながら可愛らしく行進する情景が描かれています。

3、メヌエット

ルイ14世に思いをはせるような古風な感じのメロディです。

4、バレエ

全体としていきいきとした曲調で、途中からワルツになります。

木管のソロを始め様々な楽器の音色やリズムの変化が聴きものです。難しい曲（あえてどこが難しいかは言いません）ですが、練習が進むにつれその美しさに魅了されました

### 休憩

### ヨハン・シュトラウス

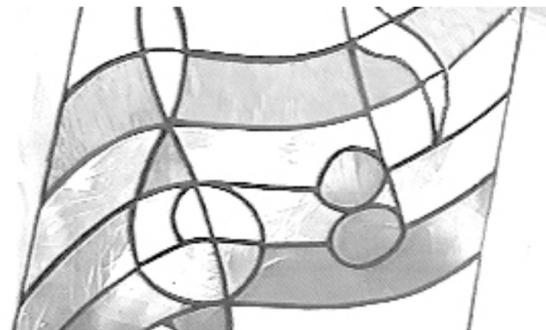
## 美しく青きドナウ

1865年初め合唱用ワルツとして作曲され、約2年後の1867年2月に初演されましたが、この年はオーストリアがプロイセンとの戦争に敗れた直後で、ウィーン市民は悲嘆に暮れているときでした。意気消沈しているウィーンっ子たちを勇気づけようと、「愉快にやろうぜ！ほら、もうすぐ謝肉祭じゃないか！苦しんだって、悩んだって、何の役にも立たないんだ、楽しく愉快にいこうぜ！」と明るく市民に呼びかけたのです。

やがて、1890年、ゲルネルト作の荘厳な歌詞に変わり、ハプスブルク帝国第二の国歌とまで呼ばれるようになります。

「いとも青きドナウよ、なんと美しく青いことか。谷や野をつらぬき、おだやかに流れゆき、われらがウィーンに挨拶を送る、・・・」

現在もオーストリア第二の国歌と呼ばれ続けています。今日はそのオーケストラ版を演奏します。ウィーンっ子の独得な三拍子が表現できればよいのですが…。



### ハイドン

## 交響曲第96番「奇跡」

交響曲の父と呼ばれるオーストリアの作曲家ハイドンは生涯に104曲の交響曲をつくりましたが晩年の作品、93番から104番はロンドンに招待されたときに作曲されたもので、まとめて「ロンドン・セット」あるいは「ザロモン・セット」と呼ばれています。

これらの中には第94番「驚愕（突如として最強奏が出現）」、第100番「軍隊（軍隊ラッパの音に由来）」、第101番「時計（規則正しい伴奏リズムに由来）」、第103番「太鼓連打（曲の最初がティンパニのロール打）」、第104番「ロンドン（ロンドンで作曲された最後の交響曲）など有名なニクネーム付きのものが含まれます。

第96番「奇跡」もその一つですが楽曲そのものとは関係はなく、初演時(1791年)に会場のシャンデリアが天井から落下したにも拘わらず、誰も怪我をしなかったという出来事に由来しているとされています。しかしその後の研究により、どうやらこれは交響曲第96番のことではなく、第102番(1795年2度目の訪英時)での出来事だったようです。なぜ交響曲第96番につけられたのかは歴史の謎です。

第1楽章 二長調 3/4拍子  
第2楽章 ト長調 6/8拍子  
第3楽章 二長調 3/4拍子  
第4楽章 二長調 2/4拍子

ちなみに、この曲の漢字表記は「奇跡」と「奇蹟」のどちらも使われています。両方とも英語で言えば「ミラクル Miracle」なのですが、偶然の産物のような出来事を「奇跡」、神や聖人が起こした（と思われる）不思議な事象を「奇蹟」と呼ぶのが適当のようです。シャンデリア落下は出来事ですがハイドンは聖人？なのでどちらでもよいのでしょうか。（約21分）

